

県内商社輸出促進応援事業 ロシアバイヤー招聘

昨年度から実施している「県内商社輸出促進応援事業」では、秋田港を活用した貿易取引の拡大を目指し、県内商社が取引するバイヤーを招聘し県内企業との商談機会を創出して輸出・販路拡大を目指しています。

今回は秋田港からの海外輸出を推進している(有)新燃コーポレーションを通じ、ロシアでレストラングループ「シベリアKU」を事業展開しているCEO デニス・イワノフ氏ご夫妻ほか経営陣シェフ一行8名を招聘し、商談および視察を11月28日から30日までの日程で行いました。

イワノフ氏は、シベリアの入口ノボシビルスクで各種業態にわたるレストラン等を展開しており、シベリアのレストラン王と言われている方です。

新燃コーポレーションは、平成27年度からロシアに向けて県産あきたこまちの輸出に取り組んでいます。さらなる輸出拡大のため、シベリアKUグループとともに、県産あきたこまちを始めとする「秋田米」の集荷から保管・精米を行う施設を視察しました。

また、「日本酒」「味噌」「醤油」「納豆」「豆腐」といった秋田県を代表する発酵食品の製造工程を視察するとともに、商品の試食・試飲等を行い、商品の特徴・価値を訴求す



秋田米の精米施設を視察

ることに努めました。

また、食事においても、商品の良さを実感できるようなメニューを紹介しました。

招聘した一行には、秋田の商品の魅力が伝わり、流通や製造過程を説明することでさらに興味を持っていただけました。

今後は、商取引のみではなく、提案した商品を利用したメニュー開発への協力を含めた商談を続け、輸出・販路拡大に繋がるようにサポートしていきます。



日本酒の製造工程を視察

ジェトロ秋田主催

台湾バイヤー招聘 デザイン製品の輸出拡大を目指す

10月23日から24日にかけて、ジェトロ秋田による「秋田デザイン産品台湾バイヤー招聘」が実施されました。

台湾から招聘されたデザイン製品のバイヤーが、海外に関心を持っている伝産品や工芸品などデザイン産品の作家やメーカーを訪問して、商談しました。

今回の事業では、9社の県内企業を訪問しました。

台湾から来秋したバイヤーは、新竹市で日本の工芸品を常時展示・販売している企業の代表者です。

新竹市は台湾の北西に位置し、台北市からは約70km。世帯平均収入が台湾で最も高く、IT関連の工場や企業が集中していることから「台湾のシリコンバレー」と呼ばれています。

バイヤーは日本の工芸品に関する豊富な専門知識を持っている方でしたので、訪問先では気になった商品について積極的に質問していました。伝統的な技法を用いた現代的なデザインの商品にとくに関心がある様子でした。

今回の商談が取引に繋がるように当協会としてもジェトロ秋田と連携してサポートを行います。それにより、今後さらに海外に関心を持つ方が増えていくことを期待しています。



ガラス作家の工房を訪問

今後予定している事業

- 北米(アメリカ)食品バイヤー招聘商談会
- 秋田市受託事業(インドネシア)

実施日

2月中旬
2月中旬

対象国・地域

アメリカ・カリフォルニア州
インドネシア

秋田の貿易ビジネスをサポートします!



一般社団法人 秋田県貿易促進協会

〒010-0951

秋田県秋田市山王二丁目1番40号 田口ビル1階

TEL 018(896)7366 FAX 018(896)7367 Email info@a-trade.or.jp ホームページ http://a-trade.or.jp/



一般社団法人
秋田県貿易促進協会
Akita Trade Promotion Association

Newsletter

第51号

2020年1月発行

新年挨拶

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様には、日頃から温かいご支援、ご協力をいただき、心から感謝申し上げます。また、関係機関の皆様からは、変わらぬご指導を賜り誠に有難うございます。

本年は、令和の時代の2年目に入ります。7月には東京オリンピックがあり、日本では2回目56年ぶりの開催となります。前回1964年の東京五輪を契機に、日本は大きな経済発展を成し遂げました。

世界経済を見渡すと、一部緩和されたとは言え米中貿易摩擦に伴う世界経済の減速懸念、英国のEU離脱による影響等々の問題がありますが、この節目の本年、県内企業、特に会員の皆様におかれましては、新たなチャンスと捉えて、果敢に挑戦して欲しいと思います。

本年も、本県の一層の貿易促進のため、会員の皆様と一丸となって、各国・各地において、積極的に取り組みを展開してまいります。

皆様にとりまして、明るく、期待の持てる一年となりますよう祈念し、新年のご挨拶といたします。



一般社団法人
秋田県貿易促進協会
会長 齊藤 健悦

秋田県産品輸出促進事業 シンガポールフェア開催



厨(くりや)ダイニング 都築シェフ

シンガポールにおける秋田県産食品の販路拡大のため、11月1日から現地のレストランと商業施設の催事コーナーを使い一般消費者を対象としたフェアを開催しました。

今年で3回目の開催となるレストランでのフェアは、創作日本料理店「厨(くりや)ダイニング」の協力のもと実施しました。このお店はサッカー選手のクリスチアーノ・ロナウド選手や元選手のデビット・ベッカム氏などの著名人が何度も来店しているシンガポールの有名店で、現地企業の接待などに

もよく利用されています。

今回は日本酒をメインに、県内4蔵元の6銘柄を1ヶ月間、特別メニューとして提供しました。現地ではフルーティで飲みやすい日本酒が人気です。今回は純米吟醸クラスのお酒を取り揃えました。

日本酒に関心があるお客様は増えてきている印象ですが、さらに浸透させ、輸出の拡大に繋げるためには、専門家による啓蒙活動などにも積極的に取り組んでいく必要があります。

物販フェアは商業施設「ジュロンポイント」内の催事スペース「和テンションプラザ」で10日間実施しました。この会場はシンガポール西部に位置し、駅に隣接していることからとても人通りの多い所です。一方、ビジネスや観光で海外から訪れている人は比較的少ないエリアとなっているため、シンガポール人の平均的な反応を感じることができません。ここでは横手市のりんごのほか、にかほ市のいちじくを使ったお菓子などをテスト販売しました。



物販フェアの会場「和テンションプラザ」

日本産りんごについての説明は必要ありませんでした。価格次第では非常によく売れるため、いかに輸送費等のコストを抑えて消費者に安く提供できるかがポイントになると思われます。

いちじくについては未知でしたが、食感や味などが現地の好みに合っているようです。種類は違いますが、いちじくは現地にもあるらしく、馴染みやすいのかもしれませんが、プロモーション次第では面白い商材だと感じました。

今回のフェアでお客様の反応が良かったものについては、定番として採用するように、またはテスト販売を延長して引き続き検討するようお願いいたしますので、状況を確認しながら出展された商品が1点でも多く取引に繋がるようにサポートを続けていきます。

ベトナム経済交流ミッション ヴィンフック省企業協会と覚書を締結

11月19日から23日にかけて、齊藤会長を中心としたベトナム経済交流ミッションを派遣しました。一行は、20日にハノイ市政府(人民委員会)を表敬訪問し、タン商工部長と面談しました。タン部長からは、6月にハノイで開催される工業展示会への出展の要請がありました。また、企業視察や農産物の栽培施設を見学するために、秋田を訪問したい旨の発言がありました。

翌21日は、以前から交流があるヴィンフック省(ハノイの西部に隣接)を表敬訪問しました。同省の企業協会、企業経営者が出席する中で、人民委員会のタン副委員長(県副知事に相当)と齊藤会長が挨拶を交わし、相互の経済交流について意見交換を行いました。

また、ヴィンフック省国際部のカン課長からも、両県省の企業の相互交流の促進に向けた提案がありました。その後はヴィンフック省企業協会

に場所を移し、両協会間の経済交流に関する覚書を締結しました。

同日は他にも広大なバナナ栽培農園を視察したり、冬虫夏草などの薬草を取り扱う会社を訪問しました。

また、同省に建設されたタンロン第三工業団地を視察しました。この工業団地は主に日系企業向けに造成されたものだそうです。団地事務所の納元パーク・コンシェルジュからは、団地の説明のほか、工場立地の要請がありました。



ヴィンフック省人民委員会
タン副委員長と面会



ヴィンフック省企業協会との覚書を締結



ヴィンフック省企業協会関係者と

滞在中はハノイ近郊に進出している日系企業を訪問し、最新情報の収集に努めました。

ヤマト運輸(株)ハノイ支店を訪問した際には、松田支店長より、ベトナムから中国への輸送についての対応と、秋田県産品のベトナムでの販売支援、日本からの一貫輸送についての提案がありました。

秋田精工(株)フンイエン工場では、熊谷社長、池田副社長と面会しました。熊谷社長は「生産状況、雇用確保については、計画通りに進んでいる」と話し、池田副社長は「昨年5月末に赴任し、ようやく現地の生活に馴染んできた」と話していました。

ドラゴン・ロジスティックス・フンイエン支店では、ベトナム・中国国境の物流についての情報を得ました。佐伯マネジャーによると「タイ、

中国のパートナーと連携した一貫業務や中国、ラオスへの輸送も可能である」とのことでした。

ベトナム日通(株)ハノイ支店では、安福次長から、2018年9月以降、中国と米国との貿易はベトナム経由で行われているほか、韓国、台湾からも多くの企業がベトナムに進出していることや、ハノイから中国・広州に繋がるの陸上輸送ルートの需要は、伸び悩んでいるなどといった説明を受けました。

ベトナムは短期的にも、長期的に見ても、高い経済成長率を続け、金利や物価が安定しており、非常に将来性が高い国です。また、労働人口が多く、平均年齢も30歳と若い為、労働市場としても魅力的です。今後、県内企業のベトナムとのビジネスチャンスの拡大を図っていきます。

ハノイには20年前にも訪問した経験があります。成長著しいベトナムではありますが、ハノイの街中に溢れるバイクの行列は今も変わらずでした。

17時以降になると夜の時間が始まります。ベトナムでは、毎日仕事が終わると、路上屋台やビアホールなどで友人や家族と一緒に過ごすことが一般的です。

市内で人気のあるビアホールには100人くらいのお客様が溢れていましたが、9割以上が30代未満と思われる若い世代でした。この元気のような若者の姿からもベトナムの将来は、明るいと思信しました。

秋田市受託事業(ベトナム) ホーチミン市場調査・商談支援

秋田市からの委託を受け、11月14日から20日までの7日間、ベトナム・ホーチミンにおいて、ベトナム人材の日本への就業状況、日本食品の販売動向等の把握のための調査を行いました。

調査には、企業3社と秋田市職員が同行しました。ベトナム人材の活用を考えるため現地の教育機関3カ所と、秋田産食品の販路開拓・拡大のため日本食品を扱っている日系商社子会社、流通業者を訪問したほか、同行企業の現地製造委託先など併せて5社を訪問し、調査や商談を実施しました。

ベトナム人材活用に関する調査のため訪問した大学及び一般の教育機関では、人材育成の状況や、海外への就労状況についての話を伺いました。

日本に興味を持つ学生は、在学中に日本語講座の受講や、卒業後に一般の教育機関での学習を経て、日本国内又は、現地の日系企業への就労

を目指しています。訪問した各機関からは、欲しい人材の条件等の情報を早めに伝えて欲しいとの要望を受けました。

ベトナムに対して、秋田の魅力を伝え、若い人材に秋田に来てもらえるように、企業及び現地大学・教育機関との連携・交流を深め、引き続きサポートします。

秋田産食品の販路開拓・拡大のための訪問では、今回参加した企業との取引を前向きに考える企業がありました。一方で、商品に係る事前のマーケティング活動が重要で、その上で商品提案を進めた方がいいとの意見もありました。日本人だけの感



日本語教育機関での意見交換

覚ではなく、現地の人を含めた事前調査を行うなど、商品選定や提案の方法について今後の課題を見つけることができ、有意義な調査になったと感じています。

ベトナムへの秋田産食品の売り込みは、他県に比べ取り組みが遅れていることを実感した調査でもありました。今後、県行政などと連携した取り組みが必要だと感じました。



現地商社との商談



現地大学への訪問

貿易エキスパート活動報告 宮城県仙台市

1. 在日ベトナム経営者協会と意見交換

これまで、あらゆる機会を捉えて各種情報を収集し、提供していますが、今回は、一般社団法人在日ベトナム経営者協会(通称VJBA ※VETNAM Business Association in JAPAN / 東京都中央区日本橋蛸殻町2-8-5)についてご紹介いたします。

昨夏、VJBAの会長 ブー・ホアン・ドク氏から宮城県内の大手メーカーとの面談アポイント取得の依頼があり、当協会が取り付けたことから、ドク会長の宮城県訪問に合わせて、10月上旬、仙台市で面会し、意見・情報交換を行いました。

VJBAは、駐日ベトナム大使館から

公認された一般社団法人です。日本とベトナムの2国間のビジネスを結ぶ架け橋として、貿易、投資、観光、技術移転などの発展に貢献しています。ベトナム企業からは日本企業の紹介を依頼されることが多いそうです。

今回、ベトナム出張で訪問する現地小売店舗についての情報提供や、行政機関などへの訪問アポイントの取得を依頼しました。

ドク会長からは、両協会による友好交流、情報交流などに関する覚書締結について提案がありました。最新のベトナム経済情報の提供のほか、ビジネスパートナーの発掘等に役立つものにしたいと話されました。

2. 仙台市内企業の動向

宮城県庁から県産品の輸出事業を委託されている仙台市内の企業から話を伺いました。

委託事業は5年目に入り、ようやくベトナムへの売り込みが軌道に乗りつつあります。当初は右も左も分からず大変だったそうです。

主にホーチミンで宮城県アンテナショップを設置したり、現地イオンにおいて販促活動を実施しています。

ホーチミンでは、日本食店舗が増加しています。それに伴い日本酒も徐々に売れ始めており、これからさらに増えていくものと想定しています。宮城県からは5つの酒蔵がベトナムに進出しているそうです。